

ま ち の 話 題

豊岡



▲後輩たちとランニングをする中川 剛さん。「一緒に走ることで何かを感じ取ってほしい」

箱根駅伝で区間賞の中川さんが帰省
後輩に走る姿でメッセージ!!

第85回東京箱根間往復大学駅伝競走の9区(23・2キロメートル)を走った県立豊岡南高校(現豊岡総合高校)出身の中川 剛さん(山梨学院大学3年・日高町佐田)が、1月5(7日、母校を訪れ、同校の陸上部員らと共に走り、後輩に大きな刺激を与えました。

中川さんは、昨年初めて10区(アンカー)で出場。極度の緊張で納得のいく走りができず悔しい思いをしたことをバネに、猛練習を積み、エース級が集まる9区で狙い通りの区間賞を取り、順位も12位から9位に押し上げました。「最後、7位集団について行けなかったので70点の出来です。来年は総合優勝を目指します」と早くも来季を見据えています。

城崎

新春かるた・百人一首大会

「君がため春の野に出でて…」
どういふ歌がある?

1月12日、毎年恒例の新春かるた・百人一首大会を城崎地区公民館で開催し、子どもから大人まで約50人が参加し、にぎわいました。大会は和やかな雰囲気スタート。百人一首では、読み手が上の句を読み上げると、参加者の表情は一変して真剣そのもの。句が読み終わる前には取り札を見つけ素早く取っていきます。また、お手つきをして残念がる参加者の表情に、周囲からは笑みがこぼれていました。

子どもの部の優勝チームは、中川みさ(城崎小6年)・中川かのん(城崎小4年)チームで「緊張したけど楽しめました」と表彰状を手に喜んでいました。



▲読み手が読み上げる句を聞き、取り札を探す子どもたち

竹野

御用地館もちつき大会

ぺったん!ぺったん!
子どもたちがもちつきに挑戦

12月23日、もちつき大会(いりりの会主催)が竹野町竹野の御用地館で開催され、地元小学生や保護者など約80人が集まりにぎわいました。

当日、参加者たちは、かるたやカード遊びのほか、同館館長の沼田恒夫さんから竹野地域の歴史を学びました。その後、子どもたちは、地域の方々に教わりながら少し重く感じるきねを持ち上げ、もちつきに挑戦。その後、もち花を作るため、つき上がったもちをクロモジの枝に付け、来年の豊作を祈りました。最後は、みんなで大きなもちやぜんざいを食べて、楽しい時間を過ごしました。



▲きねが少し重いかな?力いっぱい「よいしょっ」

まちの情報などがありましたら、秘書広報課広報広聴係まで連絡ください。



▲時折小雪の舞う中、大わらじと大ぞうりを杉の木につるす区民ら

日高

田ノ口賽さいの神まつり

家内安全を願う

大わらじと大ぞうりを奉納

1月12日、家内安全や無病息災などを願う伝統行事「田ノ口賽の神まつり」が日高町田ノ口で、区民ら約50人により行われました。

当日は、早朝から区民らが各1軒8束のわらを持ち寄って堂に集まり、約3時間かけて長さ約1・5メートルの大わらじと大ぞうりを片方ずつ作成し、集落から約300メートル離れた賽の神に奉納しました。

区長の大田尚幸さんは「この行事の起源は記録がないが、元々は、足が丈夫になるように願われていた」と話していました。今では、奉納された小石で病気の箇所をなでて、治癒を祈願する人も多いそうです。

出石

フクノハナ米粉レシピコンテスト
審査員をうならせる
アイデアいっぱい料理

12月21日、全国でも出石地域でしか栽培されていない酒米フクノハナの米粉を使用したレシピコンテスト（JAたじま出石フクノハナ生産部会主催）が出石町水上の出石農村環境改善センターで開催されました。

当日は、公募により集まった市内外の30人が料理のアイデアを競い、審査委員は、味や外観、地域特性などの観点で採点していきま

した。最優秀賞に選ばれたのは、平尾 梢さん（三宅）が作った串団子で、斬新なアイデアと出石ならではの「そば」を組み合わせたところが高く評価されました。



▲味見をしながら評価していく審査員
※関連記事 29 ページに掲載

但東

久畑有志会あんけんが行灯を設置

京街道の宿場町を照らす

行灯の通り

但東町久畑では、12月30日から1月3日までの5日間、家々の前に行灯が設置され、暗闇に浮かぶ趣きのある灯りが通りを照らしていました。山あいにある同区は、江戸時代に関所が設けられ、山陰と京都を結ぶ街道で栄えた宿場町。このまちの情緒を楽しんでもらおうと地元有志で構成する「久畑有志会」により行灯75基が作成されました。

行灯は、高さ約40センチで、四角の木枠に貼った紙には、花火やアサガオ、ホオズキに加え、「迎春」の文字や地元につながる久畑小唄の歌詞が書き添えられています。

年末年始のほか、盆にも設置する予定です。



▲連なる灯りは情緒たっぷり。